

1. 選んだ本の書誌情報

森岡孝二 『雇用身分社会』 岩波新書 2015年

2. 目次

序章 気がつけば日本は雇用身分社会 p1

派遣は社員食堂を利用できない？

～全体の構造と各章の概要

第1章 戦前の雇用身分制 p25

遠い昔のことではない

～戦前の工場における過労死・過労自殺

第2章 派遣で戦前の働き方が復活 p63

戦前の女工と今日の派遣労働者

～中高年派遣の実態と派遣法「改正」法案

第3章 パートは差別された雇用の代名詞 p93

パートタイム労働者の思いを聞く

～重なり合う性別格差と雇用形態別格差

第4章 正社員の誕生と消滅 p123

正社員という雇用身分の成立

～正社員の消滅が語られる時代に

第5章 雇用身分社会と格差・貧困 p155

雇用形態が雇用身分になった

～労働所得の低下に関するいくつかの資料

第6章 政府は貧困の改善を怠った p187

政府は雇用の身分化を進めた

～生活保護基準の切り下げ

終章 まともな働き方の実現に向けて p217

急がれる最低賃金の大幅引き上げ

～ディーセントワーク

あとがき p235

3. 著者紹介

1944年 大分県生まれ

香川大学経済学部卒業

1969年 京都大学大学院経済学研究科博士課程退学

1989年 関西大学経済学部教授 (2014年3月まで)

2018年 心不全により死去

著書『企業中心社会の時間構造』青木書店、1995年

『日本経済の選択』桜井書店、2000年

『強欲資本主義の時代とその終焉』桜井書店、2010年

ほか

4. 選定理由

1. 過去の雇用形態の特徴
2. 現在の雇用形態の特徴
3. 雇用形態の変遷を知る
4. 現在の雇用形態の発生起源について
5. 現在の雇用形態の格差の発生起源について
6. 労働条件による賃金の差
7. 賃金の差に対する国のアプローチ
8. 30年で変わった雇用関係
9. 雇用身分社会から抜け出すには
10. これから社会に出る我々にとってまともな働き方とは